

三十組之記
天

系圖香 古今香
烟競香 忍香
住立香 新月香
三友香 星合香
三夕香 一二三香

ヲ多 9
1338
24

三十組之內 天



系圖香

新月香

古今香

三友香

烟競香

星合香

忍香

三夕香

住吉香

一二三香

系圖香

香四種



一

四色認玉試

二

右同

三

右同

四

右同

右拾六包打交内より四包取炷出
し少破りて名乗紙を綴り書付
出さるる其外源氏香の
心乃ち一圖たの

川

初冠

川

薄の端

川

閑屋

川

乾田

𠂔

春日鈴

𠂔

武飛澄

𠂔

花々子

𠂔

住吉

𠂔

中津部

𠂔

子

𠂔

荷田

𠂔

八

冊

唐葉

冊

かゝる人

冊

小笹

記録たのこ

系圖香

記
二
三
四
一

冊

ヤシヤ

二三三一

名

冊

サシヤ

全

名

冊

武蔵燈

月日

出香

名乗

記録是ト常ノ事ナリ

古今香

香三種

鴛

一

五包認內去包試

蛙

一

右同即

哥

一

二包認內去試

まーれおねたのー

常くすハ 鶯のれおへ

桂くすハ 桂のれおへ

常桂くすハ 花のれおへ

桂鶯くすハ 水のれおへ

哥くすハ 哥のれおへ

れ一人系五双つ拾人系五拾双也

れの表

在原元方

伊勢大輔

柿本人丸

元内躬恒

藤系敏行

僧正遍照

紀貫之

小野小町

在原業平

讀人々々

机の裏

鸛桂哥花水

有二色も机の紋なり

又改々柿井人丸と除江壬生忠峯を

へるも有可用

記録たのこ

古今香之记
香 桂 哥 哥 哥 哥 桂 桂 桂

^名 小野所水 香 花 六

^名 信正遍昭水 香 哥 花 桂 全

^名 在原業平 香

月 日 出香名乘

但记录之南斗之書附之南斗不書之
 又记录之少时之終之開下之殘記錄之
 系一南斗之書之終之開下之殘記錄之

終に開きふ残書所て南に占蔵と有
時立に今但南に占蔵と有

又古化に古今香有と有

南時ふ用故に畧に

香六種

烟競香

炭竈

六包認内一包試

塩竈

右同以

明石浦

二包認全試

小野山より

一包徳を試

千賀浦より

右同り

海士今より

二包徳を試

右徳をとりて出香拾六包二包つて徳を
合て包紙の上下乃給ぬ振て炷出

まづ右左の香包より心得てより
りより分て試し合れお分

香組合并れお分たのより

炭竈より

炭竈の元

塩竈より

塩竈の元

炭竈 垣竈

曙の孔

垣竈 炭竈

夕暮の孔

炭竈 明石浦

火串の孔

垣竈 明石浦

漢火の孔

小野山千賀浦

浅間の孔

海士人

富士の孔

孔の数一人お八枚の表常の

札裏

炭竈

垣竈

曙

夕暮

火串

漢火

浅間

富士

右の〜一校了十人系八十枚也
 二柱開〜香二種一札一枚
 香数拾六種認共拾八包多先
 本香の包と開記録一平一後
 れと合せて南斗と記さるゝ

ハ不書多〜記録たの〜

炭竈一 小野山一
 塩竈一 千賀浦一
 明石浦一 海人一

烟競香之記

海士炭塩 炭塩 小野炭塩
 海士炭塩 明石千賀塩 炭

名 青柳 壘炭塩 火事漁火 燭燭暮全

名山標

炭火事

六

月日

右の通りなり又記帳より同賈八錢
十六包と開き残る記帳書附出
不残記録より南より占賦より在

片南より一点其南より方より一点
西種より南より二点より残る二丈
有餘

忍香

香七種

風系七種

二包德因一包試

雲井竹

右同

雲井下填

右同

月夜

右同

木葉

右同

紅葉

右同

光原氏

一包

右試香 出香七包 文々 柱出

試合 札

札の表

若紫

明石

花散里

落葉

臘月夜

式部

堂

夕音

薰

柏木

札の裏古香立紙名同と書さる人おと取つて
一柱用并南斗と記不當ふ書本香と
先札と改し合ふ事記録たのし

凡その花 — 木更の香 —
雲井の月 — 紅糸の香 —
雲の下恒 — 光原氏 —
月より香 —

忍香記

凡そ花 光原氏 紅糸の香 木更の香
月より香 雲の下恒 雲井の月

名 若葉 月より香 光原氏 二

名 明石 凡そ花 紅糸の香 四
月より香 雲の下恒

月日 出香名集

外是は順を令

一本系の付ると本葉のるゝも書令

又忍香は右方左方ゝゝ少書あり

ふ直り

住吉香

香五種

君代のきりて 二包認内一包試

久保のきりて 右同

世多のきりて 右同

兼てと栴として 右同

住吉の伝として 一色認義

右試読して出番五包お交焼出で試合

名乗紙書付出年 住吉の伝の長点

何 記 詠 友 の こ

君代の

くくくき

くくくは

くくくき

住吉香記 住吉の伝

住吉の伝 たりは くくくき

君代の 兼てと栴

住吉の伝 たりは くくくき

君代の 兼てと栴

名 一首

名

住吉松

五ノミヤ

ノミヤ

三句

君代の

なり

月日

記録是ノ順王令

新月香

香三種

樂天

六包試内一包試

阮稷

右同

月

三包試

古試香終る出香十三包灰のこゝろ
結い合ふなり

樂天くゝ 一結い

阮稹くゝ 一結い

阮稹樂天 一結い

樂天阮稹 一結い

月くゝ 一結い

右に如く結いゝる時、呼樂天阮稹

月く一包つ三包残りあゝまの樂天阮稹

の二包と取てお交内一包除き月の香

と下は成る。結ぶ。是より上香
教十二包六結いむ。お文燵
を試し合ふ。二柱開二種め
これ一枚。これのちねたの
樂天のこれ

阮積のこれ
樂天阮積のこれ
阮積樂天のこれ
外のこれ
月と月
初樂天阮積のこれ
後月と千里のこれ

又初月後樂天ハ二千里初月後沈穆ハ故人の
礼ト可考初後ハイリ

右此組香ハ三五夜中新月色二千里外
故人心トシ詩ト依組似多ノ記録如左

樂天 —

阮穆 —

新月香之記

月 —

樂天月 樂天 樂天 阮穆 阮穆
樂天月 阮穆 月 樂天 阮穆

名 白菊 樂天 色 二千里

名 丹楓 樂天月 色 二千里外 阮穆 全

月日

又新月香古詩ハ 阮穆ト阮籍トあり

樂天と沆瀣とい時代晋代と唐代と
叔代と隔る之相遠を感る後の代意
も然共上は標意と不知して
猥に難用博學の人可考然共先時代
遠のこの可なりと云ふ今尚家

の不用多

又記録は直接に半り有はは時の本考
を考へ聞き後には少しも不残記に
時の多なり但ふ残す一なる時の片
断有り故なりと云ふは然るなり

樂天

阮禎

月

新月香之記

月 阮禎 樂天 阮禎 阮禎 樂天
月 月 樂天 樂天 阮禎 阮禎

名 札

月 二千里 樂天外 阮禎 色

全

名 札

二千里 樂天 月 色 阮禎

六

月日

出香 名衆

右香六組と一組了 香色は包分秋の風景

と繪中へ書て用也 今へて

とふの爲世へ不用なり

香四種

三友香

一

三包濕衣試

二

右同

三

右同

客として

一包徳同の

右十包を試十炷香のて組立て十包
の内より一香二包二三回客香一包
入七包として又残一二三の角一包として
お交八包として炷出も常世内は三種

通了なるを心得て記紙は書附出を常
外ハ一二三の文字をて書附したるハ
一番目の香三種通了なるをて松とみ
字と一二三の文字の下に書く竹梅
是は順より記紙より一二三ウの文字

く書帛 本香斗三種出る松
竹梅の二字を書帛の字に哥上
句斗書り

松の香三種出る

常盤松の香も春る

今一松の色も春る

竹の香三種出る

年毎に生る竹乃可く春る
るぬ色といふなる

梅の香三種出る

すき色いまりの梅のそへ

香よりや似るものありけり

右松竹梅の三種いつても三種通たる

香の歌と花尿の奥より口より

とる 歌に花尿の奥より 書哥の一首あり又略し

松竹梅の三種の内南なる下は其歌の

上五文字と書あり外は其下は何種

と書全の人の三友と書尚記の表より

能く考へり記の總括たのし

—

記錄是子
旁人書

星合香

香七種

一と牽牛子 二包 諸肉一包 試

二と織女子 右同所

外ニ香五種と各一包 了 諸子試

右試終るや、牽牛織女の二包は五品又包
と折交七包して、関の少紙にて記紙に
書付しものなり。 認取一二三四五六七と
書て何番目牽牛何番目織女と書た
る。 書へたるは、牽牛三ちん月織女

六番目とあり、一二三四五六七牽如斯織

書付しものなり。 左試五品の香ハ少捨し、
包香終るや、包香なり。 記録ハ

○如部星と書きて、肉ハ牽牛織
女の文字と書なり。 関の下は名目有

たの

全の人々

星合と書

始南後南

曉の雨と書

初南後南

宵の雨と書

二種ある南

大雨と書

其外地流は色々の点々として浮現

故南家より用ある記録の面々往々

準知きなり

たの

辛午

歲

一
二
三
四
五

星合香之記

三四幸一歲二五

名

○○○

星合

名

○○○

霄雨

月日

出香名衆

記錄是順王年又安試五種

河星

三夕香

香三種

模立山

二色湯一包試

時立派

右同所

浦答屋

一包湯一包試

右試みりて出香三色お交内より一包は狂
出ん少きなり記帳に書付出ん認むの模立山
崎立澤浦の谷屋の内いつと一つ書付出ん
なり本香より哥一首より書付なり出香
三色お交皆少し有其時ハ本香の所

哥三首より書付なり注の少く右の名目より
書又哥のよみ人の名より又ハ歌五文字
より書へ全の人より書初の式より
点教文字より書付なり為記の面より
能く考ふなり
たのし

檀玄山

鴨之天

浦乃谷

三夕香之記

うらまゝ、ふり、香、きき、
所、立、澤、の、秋、の、夕、を、

名

浦乃谷

名

鴨之天

月日

記録是、順、ふ、又、浦、の、谷、の、試、を、

故、南、二、五、一、種、す、時、の、一、点、つ、三、夕

の、秋、歌、た、の、こ、

寂蓮法師

たけふ其色くばつる

まきし山の秋乃々る

西行法師

いふまゝも衣のききし梨

野のほの秋乃々る

定家卿

えくぢの尻に紅糸をばつる

浦のあやの秋乃々る

右之通より可考や

一二三香

香四種

一

二色港内一色試

二

三色港内

三

四色港内

客〜

一包徳試

右試香〜出香七包お交焼出

一ノ香斗試〜
其故ニラニ正すレタニ其片方不處し不處トモ試し〜

左試〜
左試〜

出香七包お交焼出〜

札お争一ノ香斗試合〜

お争二組も用お争

此組香〜

の板合〜

〜

客〜

一包徳文試

右試香はく出香七包お交焼出
試合れ又一の香斗試く外三種
を試してや式にあらず
出香七包お交焼出十焼香の〜

札お争一の香斗試合て正れと
お争二組も用お争

此組香をくくね香とみる一二三
の板を命て組はく一二三と書
てくくねを故一二三の十二刻の

教のあとも又一二の教と合され
 六つ刻の教ふ合六つの教とふれ
 うねも故の各目とふれ
 記

一二三香記
 一二三

軒梅
 三三三三三三三

碧桃
 三三三三三三三

月日
 出香名集

一古法一色 二色 三色 四色

一色内一色試

右各半試して中式有るは半試一ツ
の物を一ツ二ツのものを二ツ三ツの
物を三ツ一又一の香半試は外

穀は合少く有るは試は少く有るは但穀は
合少く時名無紙認む半試は七色
の香は少く名無紙認む半試は七色
半試

一色内一色試 中腹の始

式用其不面白故尚待又
古式も用ひたり時立なり
い建用ひたり

